



# Q 所得ランク 湯沢町が11年ぶり 県内トップとは

なぐもよしゆき  
南雲好幸(文責)



## A 企業利益等も含めた平均であり、 個人所得の水準ではない

質問

町民意識調査では、19から39歳の半数弱が「町外に移りたい」意向である。労働力も町外依存度は35%と高いままである。

「一人当たり所得421万円」と新聞に出た。資産まで含め、少ない人口で割った平均値が一人歩きすると誤解を招く。そこで、町民に豊かさの実態を表す基準になる数字、例えば中央値を活用し町民の実感に近い数値を示していく必要があるのではないか。

答弁

町民税の基になる所得額を用いて町民の所得の推移を測る方法を検討したが、非課税者が入らず、町独自の数値を示すのは難しい。

### 労働力の 外部依存脱却を

質問

日本は約50万人の人手不足だが、若年無業者(15〜34歳の家事・通学をせず求職活動をしていない人は約60万人。根本原因を解決せず、労働力を外部に依存

我が町も若者の流出と労働力の外部依存という課題がある。町民自らが子育てと人材育成を行い、町を守る政策が必要。

例えば、医療、教育は町民の生命財産の根本を支える行政サービスの人材不足が深刻である。これらの職種を指す学生へ「返済不要の給付型奨学金や修学資金貸与制度」の進学助成の範囲を広げられないか。

答弁

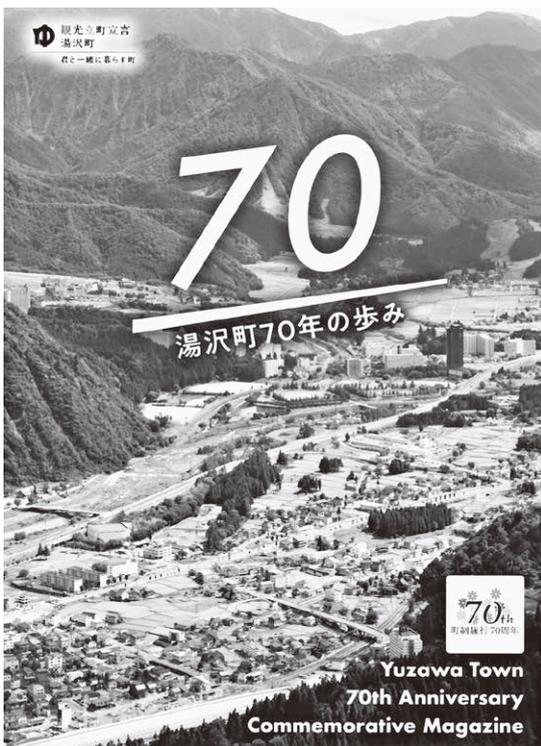
湯沢町に帰ってきてきて医師、保健師、保育士となることを望むが、他の市町村も参考にし、研究したい。

### 定住意識の 低下に歯止めを

質問

10年間の町民意識調査から定住意識の低下が見られる。

湯沢の自然を愛する心、先人が築いてきた文化や伝統を誇りに思い、外に自慢したくなる心、絆などの心の「根っこ」が定まる必要がある。町には町民憲章がある。これを具現化することである。町民憲章制定は、1985年10月22日、一ありがとう。湯沢の日制定は、2005年10月



昨年10月4日70周年式典で配布された記念冊子

答弁

16日。更に11月1日は越後湯沢駅開業日。上越線が開通しなければ今の湯沢町の発展は無かった。10月には「スポーツの日」があるが、10月第2月曜日という謂れない日になっっている。そこで、この日を「湯沢町民憲章記念日」と制定し、町民憲章にちなんだ行事と共に、町民の共有する誇りと絆の象徴として、上越線建設を成就した先人の顕彰を行う日にしてはどうか。提案についてはしっかりと検討し考えたい。

「わたしたちのねがい」

湯沢町民憲章

美しい自然に生まれ育った湯沢

さよらかな愛情あふれるまち

すこやかな活力みなぎるまち

さわやかな誰もが訪れたいまち

みんなで力をあわせ

豊かで明るく住みよい

文化の香り高い町をつくりましょう

裏表紙の町民憲章